令和８年度　授業改善推進プラン　　２年　　小平市立小平第十一小学校

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	①　児童が主体的に学ぶ授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②　興味・関心を高め、理解を深めるための ICT 機器の活用【ICT 機器の活用】	①　ほとんどの児童が主体的に授業に参加している。教材文を正しく音読し、登場人物の思いや考えを想像しながら読むことができる児童が多い。一方、言葉の意味を正しく理解できていない児童や、言葉を手掛かりに想像を膨らませて読むことが難しい児童もいる。 ②　ICT 機器を活用して、考えの視覚化や共有などを行う学習に関して、発達の段階を考慮しつつ、できることを増やしている。	①　まずは教材文を正しく音読できるようにする。音読を通して、言葉の意味の理解を深め、語彙を豊かにする。想像を膨らませて読み深められるように、考える手がかりを提示したり学習過程をスモールステップにしたりするなどの工夫をする。 ②　学習支援アプリを活用し考えを整理したり意見や感想を共有したりすることで、興味・関心を高め、多様な意見を知ることで理解を深められるようにする。学習者用端末を活用する機会を意図的に設ける。
算数	①　主体的に学びに向かう力の向上 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②　一人一台端末を活用した学習の充実 【ICT 機器の活用】	①　すすんで学習している児童がほとんどであるが、取り組むこと自体が難しい児童が少数いる。個人で問題を解くだけでなく、検討したり深めたりして、説明する力を付ける必要がある。 ②　単元テストの結果では、知識・技能の正答率が 83%、思考・判断・表現が 74%の正答率であった。	①　学習課題が児童に身近になるように設定したり、自力解決だけでなく友達と相談・交流しながら解決することを取り入れたりすることで、児童が主体的に学ぶ環境を設定する。 ②　ICT 機器を活用し、デジタルドリルで既習事項の反復練習をする時間を確保する。また、共有した他の児童の考えや説明にふれることで、「どうしてそうなるか」という理解を深めたり、より伝わりやすい説明の仕方を身に付けたりする。
生活	①　身近な人・もの・自然との関わりを通して、児童が自ら課題を見付け、友達と気付きや考えを伝え合いながら学びを深める授業を銃汁させる。 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②　一人一台端末を活用して、観察や体験の様子を写真や動画で記録・整理し、友達と共有・交流することで、気付きや学びを深める活動を充実させる。【ICT 機器の活用】	①　体験活動には意欲的に取り組むことができるが、自分の気付きや考えを友達と伝え合ったり、友達の考えと比較しながら学びを深めたりする場面では、教師の支援が必要な児童もいる。 ②　一人一台端末を使って写真を撮影したり、記録したりすることには慣れてきている。記録した内容を整理したり、学習の振り返りや発表に効果的に活用したりする力をさらに身に付けていく必要がある。	①　児童が身近な人・もの・自然と主体的に関わり、気付きや疑問をもって活動できるよう、体験活動を充実させる。また、活動を通して得た気付きや考えを友達と伝え合う場を設定し、比較したり、関連付けたりしながら学びを深める授業づくりを行う工夫をする必要がある。活動中の児童の様子や発言、観察カード・ワークシートの記述、振り返りの内容をもとに、自分の気付きや考えを表現する力、友達との交流を通して学びを深める姿を評価する。 ②　一人一台端末を活用し、観察や体験活動の様子を写真や動画で記録するとともに、記録した情報を整理・共有する活動を取り入れることで、児童が自分の気付きや考えを分かりやすく表現できるようにする。

音楽	① 学ぶ楽しさを実感させる授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② 興味・関心を高め、理解を深めるための ICT 機器の活用 【ICT 機器の活用】	① ほとんどの児童が主体的に授業へ参加している。 一方で、苦手意識があると取り組むことに躊躇する児童が数名みられる。 ② ブラウザ上で利用できるアプリなどを活用し、リズムや学校では扱うことができない楽器の音色を楽しんだり、音楽づくりをしたりしている。	① 楽しさを感じ、学びにつなげていくことができるような教材選択をする。教師が手本を示す、演奏前にしっかり声を出して歌うなど、実践的、視覚的な支援をする。 ② 特に音楽づくりにおいて一人一台端末を活用し、自ら作り上げる音楽の楽しさを感じられるようにする。
図画工作	① 学ぶ楽しさを実感させる授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② 振り返り活動の充実【ICT 機器の活用】	① ほとんどの児童が主体的に授業に参加している。本時で使う素材や技法のねらいから逸れて制作してしまう児童もいる。 ② 友達の作品を多くの児童が意欲的に鑑賞することができている。自分の作品のよさを友達に伝えることに支援が必要な児童も若干いる。	○ 教師が提示する見本（複数の種類、教師のねらいを落とし込んだものなど）を充実させたり、友達の作品を鑑賞する時間を充実させたりし、鑑賞と交流に慣れ、自分の考えをどんどん伝え合えるようにする。年間の活動を通して、単元ごとに制作するよさや材料や道具を使う面白さに気付かせるようにする。
体育	① 基礎体力の向上、体育的活動の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② 動きの可視化、振り返り活動の充実 【ICT 機器の活用】	① ほとんどの児童が主体的に授業に参加している。 一方で、苦手意識があると取り組むことに躊躇する児童が数名いる。 ② 毎時間、学習の振り返りを行い、児童の「分かった」・「できた」の質・量をさらに高めていく必要がある。	① 運動の日常化につながるように、児童が体育学習以外の時間にも取り入れやすい運動の内容やの場を授業内に設定していく。 ② 児童の「分かった」・「できた」を高めていくために、活動に合った振り返り（発言、ワークシートへの記述など）を行っていく。また、手本となる動きや自分の動きを ICT 機器で可視化し、振り返りに生かす。
道徳	① 児童が教材の登場人物の心情や考えを自分自身の生活と結び付けて考え、多様な考えに触れながら、道徳的価値について理解を深める授業づくりを行う。 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT 機器を活用して、児童の考えを可視化・共有し、自分と友達の考えの違いや共通点に気付きながら、多面的・多角的に考えを深める活動を充実させる。 【ICT 機器の活用】	○道徳的な価値について自分なりに考えようとする姿が見られる。また、発問に対して自分の思いや考えを発表することができる児童も多い。一方で、友達の意見を聞いて考えを広げたり、日常生活の中でどのように行動していくかを具体的に考えたりすることには課題が見られる。	① 教材を通して登場人物の心情や行動の理由を考える発問を工夫するとともに、自分の考えを表現し、友達と交流する場を設定する。互いの考えの違いや共通点に気付く活動を通して、多面的、多角的に考え、道徳的価値についての理解を深められるようにする。 ② デジタル教科書のスライドショー動画を視聴した後に話し合い活動に入ることで、より考えやすくし、資料の内容、価値項目に迫りやすくする必要がある。

評価の方法は、学校評価及び実施可能な教科は単元ごとのテスト等の正答率・到達率とする。